

ラーニング commons の開かれたディスカッションスペースとしての
利用状況の分析 ―曜日・時期・天気・時間の観点から―
Analysis of Usage as Open Discussion Space -From the View
Points of Day of the Week, Decades, Weather, and Time-

学籍番号：201421573

氏名：筒井 規子

Noriko TSUTSUI

本研究では、ラーニング commons の中でも複数のグループが同時にディスカッションをすることができるスペース(以下「開かれたディスカッションスペース」)に着目し、その利用状況を明らかにする手法を提案し、それをを用いて開かれたディスカッションスペースの利用状況に影響を与える要因を明らかにした。

利用状況を明らかにする手法として音量を考え、目視で実際にディスカッションが行われている時間帯と行われていない時間帯を確認するとともに、騒音計によってその空間の音量の測定を行った。その結果を基に、ディスカッションが行われている時間帯とそうでない時間帯を、音量のしきい値を定めることで求め得ることを明らかにした。

利用状況に影響を与える要因を考え、平日>休日、非テスト期間>テスト期間>休業期間、晴>雨、午後講義中>午前講義中・昼休み・放課後という仮説を立てた。中央館・専門館を対象に調査・分析し仮説を検証した。その結果、平日>休日は中央館では立証されたが、専門館では有意差が認められなかった。時期については、中央館では仮説通り夏期休業中が最も低くなったが、仮説に反してテスト期間において利用率が最も高いことが明らかになった。専門館ではテスト期間に比べて夏期休業中が、利用率が低いことのみ有意性が見られた。時間については、中央館・専門館ともに仮説通り午後の講義時間において利用率が最も高く、午前の講義中が最も低いことがわかった。天気については、どちらの図書館においても仮説に反して影響が見られなかった。

これらの結果から、開かれたディスカッションスペースにおけるディスカッションの実施状況は騒音計を用いることで明らかにし得ること、曜日・時期・時間はディスカッションの実施状況に影響を与える可能性があることが考えられた。

研究指導教員：中山 伸一

副研究指導教員：真栄城 哲也